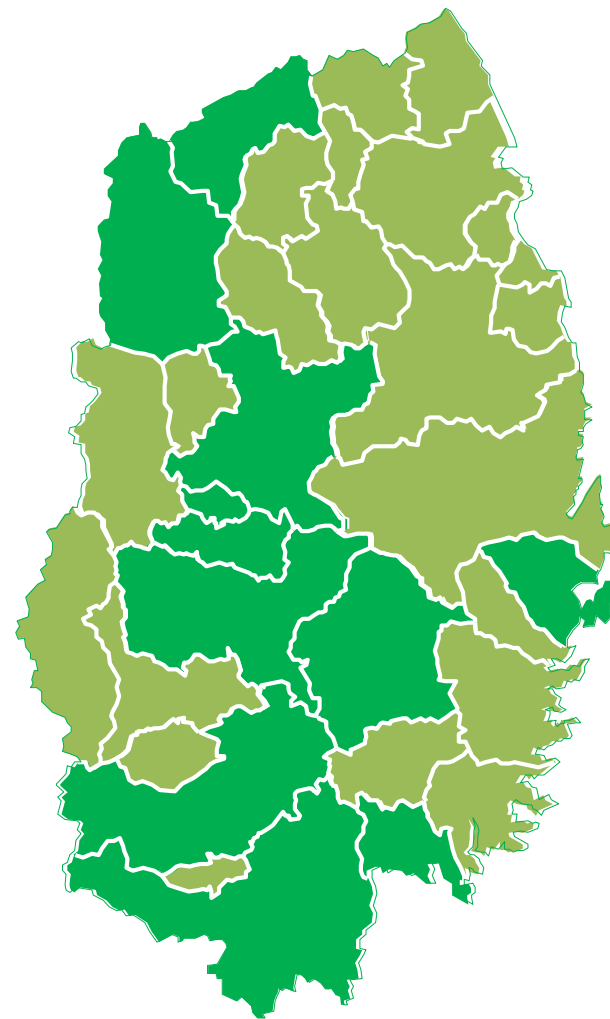


# 令和5年度 環境保全型農業 取組事例集



令和6年3月  
岩手県農林水産部農業普及技術課

## □ 事例内容

	タイトル	市町村	事業活動			頁
			1号	2号	3号	
1	JAIいわて中央りんご部会の特別栽培の取組	盛岡市、紫波町、矢巾町	○			1
2	環境に配慮した江刺金札米の生産	奥州市(江刺)	○			2
3	「たかたのゆめ」ブランド化研究会の特別栽培の取組	陸前高田市	○			3
4	園芸経営体における環境負荷低減の取組	二戸市(浄法寺)	○			4
＜ 有機農業 ＞						
1	安全・安心で持続可能な農業生産を目指して	盛岡市	○	○		5
2	農福連携で有機農業を推進	八幡平市	○			6
3	食べる人と未来を思って作る 環境に配慮した “みずほ米”の取組	花巻市	○			7
4	有機農業で持続可能な社会の構築を	一関市	○			8
5	人と土と種で作るシンプルな自然栽培のお米	遠野市	○			9
6	環境保全と食の大切さを有機農業から伝えたい	山田町	○			10
7	各生産者の得意分野を生かした持続可能な 農業生産の実践	二戸市	○			11

### ＜事業活動＞

1号活動：土づくり、化学肥料・化学農薬の低減 2号活動：温室効果ガスの排出削減 3号活動：農林水産大臣が別途定める事業活動

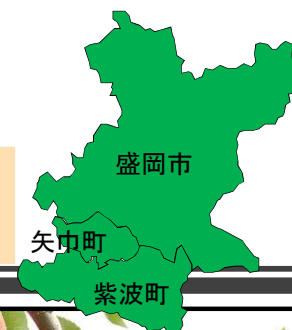
市町村名：盛岡市、紫波町、矢巾町

# JAIわて中央りんご部会の特別栽培の取組

1号活動

2号活動

3号活動



## 組織概要

組織名：岩手中央農業協同組合りんご部会

部会員数：723名

作付面積：りんご 424.1 ha



## 取組概要

- 平成16年に特別栽培認証を取得し、部会全体で「特別栽培りんご」を生産
- 化学合成農薬の5割低減  
交信攪乱剤「コンフューザーR」の隔年使用や部会員による定期的な病害虫発生予察を行い、化学合成農薬の成分使用回数を慣行栽培より5割低減
- 化学肥料の5割低減  
特別栽培専用肥料（有機入り）を使用することで、化学肥料の窒素成分施肥量を慣行栽培より5割低減
- 「特別栽培りんご」は、平成23年度に第41回日本農業賞の大賞を受賞しているほか、台湾やアメリカ等、海外でも品質の高さに人気があり、国内外で高い評価

## 課題

- 高齢化による担い手不足
- 近年の天候不順による病害虫発生時期等の変化への対応

## 今後の展望

- 消費者が求める安全・安心で高品質なりんご生産の継続

## HP・SNS等

JAIわて中央HP <https://ja-iwatechuoh.or.jp/>

## 問い合わせ先

盛岡広域振興局農政部 TEL:019-629-6599  
盛岡農業改良普及センター TEL:019-629-6730

市町村名：奥州市

# 環境に配慮した江刺金札米の生産

1号活動

2号活動

3号活動



奥州市

## 経営概要

組織名：岩手江刺農業協同組合稲作部会  
経営面積：水田 2,969 ha、会員：1,294 名  
作付面積：水稲 2,969 ha

## 取組概要

- 土作りに向け、JA堆肥センターの牛ふん堆肥や土作り肥料を部会全域の水田に毎年度施用
- 生産履歴の明確化のため、栽培管理記録簿の記帳を部会全域で徹底
- 有機質由来の窒素を主体とした肥料を基肥及び追肥に使用し、化学肥料の窒素成分施肥量を慣行(N:8kg/10a)の半分(N:4kg/10a)に低減
- 生物農薬による種子消毒や初期害虫の隔年防除等を行い、化学合成農薬の成分使用回数を慣行(16成分)の半分以下(6~8成分)に低減
- 地域独自に病害虫の発生予察調査を定期的を実施し、適期防除に活用
- 令和5年産から、ネオニコチノイド剤を使用しない病害虫防除に部会全域で取組
- 認証を受けた特別栽培米は「江刺金札米」として全国的な販売を展開



## 課題

- 高齢化に伴う労働力不足が顕在化
- 肥料や農薬など生産費の高騰
- 気候変動下における収量・品質の安定

## 今後の展望

- プラスチック排出抑制対策として、プラスチックを使用しない緩効性肥料を令和6年産から使用
- 産地精米を拡大し、輸送による二酸化炭素排出量を削減

## HP・SNS等

<https://www.jaesashi.or.jp/brand/esashi-kinsatsu/>

## 問い合わせ先

県南広域振興局農政部農業振興課  
奥州農業改良普及センター

TEL:0197-22-2842  
TEL:0197-35-6741



市町村名：陸前高田市

# 「たかたのゆめ」ブランド化研究会の 特別栽培の取組

1号活動

2号活動

3号活動

陸前高田市



## 組織概要

組織名：「たかたのゆめ」ブランド化研究会  
農家数：28 農家（うち特別栽培 18農家）  
作付面積：水稲 55 ha（うち特別栽培 23.6 ha）

## 取組概要

- 復興米として陸前高田市で栽培している「たかたのゆめ」は、環境保全型農業直接支払制度を活用して、生産者の約6割以上が特別栽培米を生産
- 研究会で水田の生育・収量調査を行い、病害虫の発生状況等を確認することで適期防除が可能となり、化学合成農薬の成分使用回数を慣行栽培より5割低減
- 特別栽培専用肥料(有機入り)を使用することで、化学肥料の窒素成分施肥量を慣行栽培より5割低減
- 市内小中学校における米飯給食での使用や、県外のイベント参加などを通して、地域内外での認知度向上に向けたPR活動を実施



## 課題

- 高齢化に伴い水稲作付農家が減少
- 特別栽培は慣行に比べて単収がやや低い

## 今後の展望

- 栽培体系の確立に向けた調査・分析や、市場評価の確立に向けたPR活動を通して、継続性のある安定した販路の確保を目指す

## HP・SNS等

陸前高田のブランド米「たかたのゆめ」公式サイト  
<https://takatanoyume.net/>

## 問い合わせ先

沿岸広域振興局大船渡農林振興センター TEL:0192-27-9914  
大船渡農業改良普及センター TEL:0192-27-9936

# 園芸経営体における環境負荷低減の取組



1号活動

2号活動

3号活動

## 経営概要

経営体名：個人経営体（本人、従業員2名、実習生2名 計5名）

経営面積：畑地 166a

作付面積：グリーンアスパラガス 60a、ミニトマト 86a、ホウレンソウ 20a 等

## 取組概要

令和2年度に持続性の高い農業生産方式の導入に関する計画の認定(旧エコファーマー制度)を受け、環境負荷低減の取組を実施

### ○ 土づくり

圃場の土壌診断を毎年行いながら、地元の畜産農家の牛ふん堆肥を使用した土づくりを実践

### ○ 化学肥料の低減

土壌診断結果に応じた有機肥料(豚糞)を加えた施肥により、化学肥料の窒素成分施肥量を低減

グリーンアスパラガス：33kgN/10a ⇒ 26kgN/10a  
ミニトマト：24kgN/10a ⇒ 18kgN/10a

### ○ 化学合成農薬の低減

グリーンアスパラガスのオオタバコガ防除に生物農薬であるBT剤を導入し、化学合成農薬の成分使用回数を10回から8回に低減

### ○ 省力化技術の導入

ミニトマトのパック詰め機導入により、一日7時間4名での手作業を2名1時間に削減、短縮



ホウレンソウ

ミニトマトパック詰め機

## 課題

- 販売価格の低迷及び資材高騰、労働力確保に向けた年間雇用による農業経営の圧迫
- 冬季間の収入の確保、寒冷期の栽培作物の検討及び収益化
- 高付加価値化による販路拡大、出荷価格の向上

## 今後の展望

- 環境負荷低減の取組継続
- グリーンアスパラガスは現状維持、ミニトマトは作付拡大を検討、ミニトマトの後作としてホウレンソウを導入
- パック詰め等の梱包資材の再検討(資材高騰対策)

HP・SNS等  
なし

問い合わせ先

県北広域振興局二戸農林振興センター TEL:0195-23-9203  
二戸農業改良普及センター TEL:0195-23-9208

市町村名:盛岡市

# 安全・安心で持続可能な農業生産を目指して

1号活動

2号活動

3号活動



盛岡市

## 経営概要

経営体名:キートスファーム株式会社

経営面積:畑地 5.3ha

作付面積:甘藷1.5ha、キャベツ1.2ha、長ねぎ0.8ha、ミニトマト0.2ha 等

## 取組概要

- 甘藷 (1.5ha)、ミニトマト (0.2ha) 等では有機JAS認証を取得
- 販売先: イオン東北、グリーンコープ、マイヤ 等
- 取組のきっかけ  
真の安心安全な食物生産に取り組む必要があると考えたこと
- 取組のポイント
  - ・ 全経営面積において、豚ふん堆肥の施用 (2トン/10a) や緑肥、植物残渣のすき込みを組み合わせた土づくりを行うとともに、化学肥料は不使用
  - ・ 全経営面積で除草剤不使用
  - ・ R5年度より、有機JAS認証取得圃場以外を特別栽培に切替中
  - ・ 資材製造過程の炭素放出量が少ない木骨ハウスを導入
  - ・ 薪ストーブを導入し、冬期間の施設暖房コスト削減とカーボンニュートラルを両立。ヒートポンプを組合わせた暖房効率向上と薪使用量削減を目指す (令和7年度予定: 薪使用量 8トン→6トン)
  - ・ 露地野菜において、生分解性マルチへの切替を予定 (使用率: 0%→70%)



## 課題

- 地元の学校給食向けに安全安心な野菜をより多く提供したいが、慣行品と同列に扱われ価格競争に負けてしまう
- 生分解性マルチへの切替えは、有機JAS認証や大幅な価格差が障壁

## 今後の展望

- 地域に特別栽培や有機栽培の取組を拡げるとともに、若者に対し農業が持続可能で生業としても成立し、魅力溢れる産業であることを発信する

## HP・SNS等

<https://www.kiitosfarm.com/>  
<https://m.facebook.com/kiitosfarm.morioka/>

## 問い合わせ先

盛岡広域振興局農政部 TEL:019-629-6599  
 盛岡農業改良普及センター TEL:019-629-6726





## 課題

- 気象・気候変動への対策
- 抗生物質の投与等の無い畜ふん堆肥の確保
- 販路拡大

## 今後の展望

- 有機栽培に取り組む仲間を増やし、地域ぐるみで有機農業の取組を推進するオーガニックビレッジの実現に貢献
- ノーフクJASの取得

## 経営概要

経営体名：一般社団法人「すばる」  
経営面積：水田 2.2ha、畑地 2.5ha  
作付面積：水稲 2.2ha、にんにく 0.8ha、とうがらし 0.1ha、  
じゃがいも0.1ha、その他（ねぎ、だいず、かぼちゃ等）

## 取組概要

- 農業事業と障がい者支援事業に取組み、農福連携を実践
- 普及センターから八幡平オリジナルのにんにく品種「八幡平バイオレット」を紹介されて、普及センターと共に取組みを推進
- にんにくとその加工品である黒にんにくは、それぞれ有機農産物及び有機加工食品のJAS認証を取得
- 焼き肉店、レストラン等県内の飲食店と直接取引。ECサイトでも販売
- 抗生物質の投与などを行っていない畜ふん堆肥の入手が難しいことから、土づくりには緑肥を活用
- 除草は機械及び人力で行い、除草後の雑草もたい肥化して利用

## HP・SNS等

<https://www.kaeruorganic.com/>  
<https://www.s-tumugi.jp/>

## 問い合わせ先

盛岡広域振興局農政部 TEL:019-629-6599  
八幡平農業改良普及センター TEL:0195-75-2233



# 食べる人と未来を思って作る 環境に配慮した“みずほ米”の取組



1号活動

2号活動

3号活動

## 経営概要

経営体名：農事組合法人みずほ  
 経営面積：水田 109.4ha  
 作付面積：水稲 64.5ha（うち特別栽培 58.9ha、有機栽培 5.6ha）、  
 小麦 36.2ha、大豆 7.1ha（うち有機栽培 20a）等

## 取組概要

- 化学肥料の多用による温室効果ガス(一酸化二窒素)の発生や、化学農薬の使用による生物多様性への影響の低減を目指し取組を開始
- 特別栽培では、植物性有機質肥料等の利用による“化学肥料不使用”や、機械除草等による“化学農薬成分使用回数の8割以上低減”を实践
- 有機栽培では、令和5年からアイガモロボットを導入し除草作業の省力化を図るとともに、一部ほ場では有機JAS認証の取得を進めるなど、積極的に取組を拡大
- 環境保全型農業直接支払交付金を活用し、有機農業の取組やカバークロープによる土壌中への炭素貯留の取組を推進
- 生産した米は「みずほ米」や「有機みずほ米」として、ECサイトで販売するほか、花巻市のふるさと納税の返礼品としても人気



## 課題

- 消費者からの需要に応えるための栽培面積の拡大
- 除草作業等のさらなる省力化

## 今後の展望

- 環境に配慮した栽培をより多くの農業者に広げるとともに、今後も消費者や地域と結びついた取組を継続
- 小麦や大豆等、水稲以外の品目への取組拡大

## HP・SNS等

農事組合法人みずほHP <https://mizuho-aguri.com/>

## 問い合わせ先

花巻農林振興センター TEL:0198-41-5406  
 中部農業改良普及センター TEL:0197-68-4464

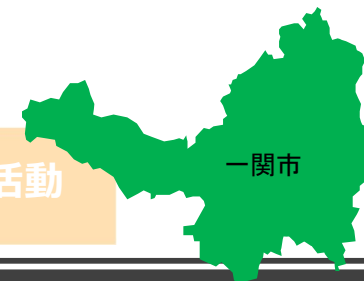
市町村名:一関市

# 有機農業で持続可能な社会の構築を

1号活動

2号活動

3号活動



一関市

## 経営概要

組織名 : 大東町有機農産物等生産組合  
有機JAS認証面積 : 水田 11.6ha、畑地 0.7ha  
作付面積 : 水稲 11.6ha、野菜 0.7ha (トマト、さつまいも、葉菜類)

## 取組概要

- 1994年より代表の小島氏が水稲の有機栽培を開始
- 1998年に大東町有機農産物等生産組合を設立  
現在は一関市内の22名が加入し有機農産物等を生産
- 地域の豊かな自然を守り活かすこと、生物多様性を考慮した土づくりを行うこと、食べ物の大切さを念頭に置くことを基本理念に掲げて活動
- 2回代かきや深水管理によりノビエの発生を抑制  
ホタルイやコナギは乗用除草機などで除草
- 米は有機農産物を取り扱う事業者を介し首都圏等で販売  
野菜は地元産直の他、県内スーパーの有機農産物コーナーでも販売
- 2006年から「田んぼの学校」を開催し、小学生を対象に食べ物や自然の大切さを伝えている。  
2009年からは学校給食への有機栽培米の提供を開始し、令和4年からは一関市内の全小中学校を対象に取組を拡大中



## 課題

- 重労働、非効率等、有機農業に対するイメージの転換が必要
- 一般的に普及する農機を応用した技術開発
- 鳥獣害対策

## 今後の展望

- 消費者と環境保全型農業の価値を共有
- 有機農業を通じ、次世代の健康と環境を守る

## HP・SNS等

<https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/index.cfm/7,8675,126,237,html> (一関市HPにおける紹介記事)

## 問い合わせ先

県南広域振興局一関農林振興センター TEL:0191-34-4695  
一関農業改良普及センター TEL:0191-52-4961

市町村名: 遠野市

# 人と土と種で作るシンプルな自然栽培のお米

1号活動

2号活動

3号活動



遠野市

## 経営概要

経営体名: 勘六縁 (代表: 菊池陽佑)

経営面積: 水田 6.7 ha

作付面積: 水稲 6.7 ha

## 取組概要

- 山の木や花、草を手本に、農薬や肥料を使わない自然栽培を実践 (6.7ha)
- 収穫した粃を翌年の種粃に使うことで、土地に合う種を育成
- 育苗用土は自身の水田土壌と稲わら、少量の玄米を配合し調整
- 除草は除草機と手作業により対応
- 「遠野4号」「亀の尾」「ササニシキ」など、古くからある品種や遠野市発祥の品種を大切に栽培、生産
- 米はインターネット販売により毎年完売
- ホームページやSNSでの発信、精米歩合を選べるオプション、親しみやすい紙袋など、消費者にも配慮



## 課題

- 除草技術の確立 (主にクログワイ対策)
- 苗作り
- 獣害対策

## 今後の展望

- 地元の自然と先達の知恵に学びながら自然栽培を受け継いでいく
- 自然を感じたいというお客様の暮らしに寄り添う米作りを続ける
- いずれは世界の方々に主食を作る技術を伝えていきたい

## HP・SNS等

<https://kan6en.com/>

## 問い合わせ先

県南広域振興局遠野農林振興センター

中部農業改良普及センター遠野普及サブセンター

TEL: 0198-62-9932

TEL: 0198-62-9937



市町村名: 山田町

# 環境保全と食の大切さを有機農業から伝えたい



1号活動

2号活動

3号活動

## 経営概要

経営体名: 株式会社いわき農園

経営面積: 畑地2.0ha

作付面積: ブロッコリー1.0ha、  
ほうれんそう0.3ha、  
ミニトマト0.1ha

## 取組概要

- 全経営面積で有機栽培に取り組む
- 施設栽培では、ほうれんそうとミニトマトで有機JAS認証を取得(各0.1ha)
- 露地栽培では、ブロッコリー(0.2ha)、にんじん(0.1ha)、ほうれんそう(0.3ha)で有機JAS認証を取得
- 有機JAS認証取得品目は、有機農産物を取り扱う業者を介して東北の量販店等で販売
- 取組のきっかけ  
ワーキングホリデーで海外を訪れた際に、満足に食べることができない状況を経験し食のありがたみを痛感。環境問題への関心もあり、食を生み出す農業、中でも有機栽培を志向
- 取組のポイント:
  - ・ 合鴨ふん堆肥や鶏ふん堆肥、豚ふん堆肥を用いた土づくりを実施し、自家製のボカシ肥を使用
  - ・ 病害対策として、施設栽培では1作毎に太陽熱消毒を実施



## 課題

- ホウレンソウを増産したいが、資材価格の高騰でハウスの増棟が難しい(土地や水源確保も必要)
- 病害虫被害を軽減する防除体系の確立

## 今後の展望

- 品目の構成は大きく変えず面積を増やす
- ホウレンソウの栽培面積を増やす
- 地域の有機栽培に適した品目を選定する。

## HP・SNS等

<https://www.instagram.com/iwakigram/>

## 問い合わせ先

沿岸広域振興局宮古農林振興センター TEL:0193-64-2214  
宮古農業改良普及センター TEL:0193-64-2220



# 各生産者の得意分野を生かした 持続可能な農業生産の実践

1号活動

2号活動

3号活動



二戸市

## 経営概要

組織名:二戸有機の会 (R5 生産者6名)  
作付面積:雑穀11.8ha、野菜(キャベツ、赤カブ等)3.4ha、  
水稲1.3ha、にんにく1.0ha、小麦0.4ha



雑穀乾燥の様子  
(ひえしま)

## 取組概要

### ○ 取組の経緯

- ・ 真の安心安全な食物生産に取り組む必要があると考え、H13に生産者4名(3.6ha)で雑穀や水稲の有機JAS認証を取得
- ・ 当初から雑穀を生産する生産者が多く、現在も全体の66%を占めるが野菜の生産者はH30ころから加入し、徐々に割合が増加
- ・ 生産者の高齢化に伴い、20年以上継続してきた有機JAS認証は令和5年3月末をもって廃止し、現在は環境保全型農業直接支払交付金の対象として生産

### ○ 取組のポイント

- ・ 一つの経営体としてではなく、生産者それぞれが得意とする作目を栽培し、それぞれの販売先を確保して販売
- ・ 年に数回の会合において、情報共有

## 課題

- 生産者の集合した任意組織であるため、それぞれの生産量が少なく、高齢化も進んできている
- 会の存続のためには、事務局の存在が欠かせないが、後継者の目途が立っていない

## 今後の展望

- 各生産者の得意な作目で有機栽培を継続し、若者に対し農業が持続可能で魅力溢れる産業であることを発信

## HP・SNS等

なし

## 問い合わせ先

県北広域振興局二戸農林振興センター農業振興課 TEL:0195-23-9203  
二戸農業改良普及センター TEL:0195-23-9208